

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の 達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
2	課題発見・解決力の育成とコミュニケーション力向上	★	継続	・目標に向かって児童自ら選択・決定する場面、他者との対話から学びを深める場面を大切に学びづくり	・「明確なゴールの設定」「学習方法の選択・決定」「対話の充実」の視点で授業づくりを行う。 ・学びづくりのための計画的・柔軟的な研修を実施する。	・柔軟の方路に関するアンケートの肯定的回答82% ・「安心して発言できる」76% □国語科に重点を置き、研修を3回実施した。また、チャレンジタイムで対話の時間を月に1回設定した。 ・「学びづくりを通して成長した」100%、達成率111% □児童の感想や教師のニーズをもとに、研修内容を工夫し、授業づくりに関わる研修を18回実施した。	3	3	・「特別の教科 道徳」に重点を置き、授業づくりの研修を継続して実施する。安心して発言できる発言力を高めるために、対話の仕方シートを作成し、単元に1回はシートを用いての話し合いを実施する。 ・より授業の質を高めるために、計画的に研修を組み、授業を交流したり見合ったりする「授業見に行こう週間」を設定する。	・柔軟の方路に関するアンケートの肯定的回答84% ・「安心して発言できる」77% □「特別の教科 道徳」に重点を置き、授業研修を4回実施した。また、対話の仕方シートを用いた話し合いを行った。 ・「学びづくりを通して成長した」100%、達成率111% □全学年で道徳の同じ価値項目を設定し、道徳の授業づくりに関わる研修を9回実施した。	3	3	3	・対話シートを用いたり、対話の時間を取り入れたりとすることで、グループの中で発言する児童は増えた。一方で、対話の質を高めることが難しかった。対話の質を高めるために、ねらいとする児童の対話の姿を教職員間で共有する。 ・教科を絞って研修を行うことで、教科の特性を活かした授業づくりを行うことができた。引き続き教科を絞ることで、授業の質の向上を図っていく。また、研修の見直しを行い、お互いの授業を交流できる時間を設定する。
4	豊かな心の育成	★	継続	・他者とかかわりから自分の良さに気づき、共によりよく生きようとする児童の育成	・児童会活動(縦割り班活動等)の充実を図る。 ・道徳の授業を中心に、対話や交流から自分の良さに気付かせる取組を進める。	・「友達や他学年の児童と協力して活動できた」「自分の役割を果たせた」と回答する児童90%以上。 ・「道徳の授業で自分のことを振り返ることができた」89% □めあてを設定し、本場で学習させたいことを明確にするとともに振り返る時間を確保した。	3	3	・縦割り班掃除の掃除場所を決める際は、高学年と低学年が組んで掃除するように指導する。掃除の反省の際に、お互いのよい姿を伝える「掃除きらい」の機会を設定する。 ・道徳の授業における振り返りを確実に行うために、登壇時でも活用しながら時間を確保する。学習のまとめを生活に結び付けるような終末を行い、自分の生活を振り返って書きやすいようにする。	・「友達や他学年の児童と協力して活動できた」94% □「きらり」でほめられる児童が増え、異学年間との交流が増えた。 ・「道徳の授業で自分のことを振り返ることができた」88% □振り返りの内容を具体的に分かりやすく提示する。 □ふりかえりの「おまかせ」の視点を他教科でも活用する。	4	3	4	・縦割り班活動(掃除、児童会行事など)の反省の際に「きらり」の例を提示し、ねらいとする振り返りのイメージを児童にもたせる。 ・「きらり」の反省では、高学年が主体となり積極的反省をするよう促していく。 ・道徳の振り返りでは、振り返りをするときの質問をより具体化し、自分の生活を振り返りやすいようにする。 ・ふりかえりの「おまかせ」の視点を活用し、視点を明確にして児童が振り返られるようにする。
2	たくましい体の育成		継続	・友達と関わりながら運動すること運動の楽しさをあじ合う児童の育成 ・生活リズムを守る意識の向上	・運動の特性に触れる体育科の授業づくりを進める。 ・なわとびや外遊びタイム等、運動する機会を設定する。 ・「ノーマディア・ロング屋休憩」の取組を進める。	・「体育の授業が楽しい」と回答する児童80%以上。 ・「体育の授業を工夫している」「運動の特性を意識している」と回答する教職員90%以上。 ・「生活時間を決めて守ることができた」と回答する児童80%以上。	3	3	・授業の中で友達と意見交流する時間を設定し、お互いを認め合うことで、運動の意欲を高める。 ・運動の特性に触れる体育科の授業づくりを進めるため、授業場面を交流する機会を増やす。 ・ノーマディア週間を中心に保健指導や保健便りを通して、児童・保護者の関心や意識を高めていく。	・「運動が楽しい」94% □運動の特性を意識した授業を行ったことで運動の意欲が高まった。 □休憩時間のタブレットの使い方を全校で整理したことで外遊びをする機会が増えた。 ・「運動の特性を理解している」87% □学年の担任同士で運動の特性に触れる体育科の授業づくりについて交流できたが、全体で運動の特性について研修する場が少なかった。 ・「生活時間を決めて守ることができた」85% ノーマディア週間で生活習慣を振り返り見直すことで生活リズムを守る意識が向上した。	4	4	4	・引き続き、運動の特性を意識した授業を行うとともに、体育科での児童の運動量を確保し、運動に対する意欲を高めていく。 ・運動の特性について研修する場を増やし、教職員の理解を深めていく。 ・ノーマディア週間で就寝時間や起床時間、メディアの使用時間以外の項目も取り扱い、生活習慣を見直す機会を増やす。
3	信頼される学校づくりの推進		継続	・働き方改革を進めながら、児童や保護者が「学校は楽しい」と言える学校づくりを推進する。	・業務改善を進め、職員のやりがいを伸ばし、子ども主体の学校活動を創り出す。 ・学校によりやHPで学校の様子を発信する。	・「仕事にやりがいを感じている」と回答する教職員90%以上。 ・時間外勤務時間月40時間以内の教職員90%以上。 ・学校によりやHPで学校の様子発信する。 ・「学校は楽しい」と回答する児童・保護者90%以上。	3	3	・「仕事にやりがいを感じている」と回答する教職員は100%である。 ・時間外勤務時間月40時間以内の教職員については90%であった。時間外勤務平均時間は減少傾向にある。 □「すいすい会議」を持ち、業務改善について話し合いをした。 ・学校によりやについては、月2回のペースでこれまで11回発行している。(8月を除く) ・「学校は楽しい」と回答する児童は92%、保護者は95%であった。	・「仕事にやりがいを感じている」と回答する教職員は100%。時間外勤務時間月40時間以内の教職員は90%であった。 □「すいすい会議」を2カ月一回行った。業務改善のアイデアや業務の進め方を交流できた。 ・学校によりは、月1～2回のペースでこれまで17回発行した。 ・「学校は楽しい」と回答する児童は93%、保護者は98%であった。 □地域のの方からの働きかけや、ボランティアの方との熱い話し合いの様子を通信を通して発信する中で、児童が積極的に地域学習に取り組む姿が目立つ。	3	3	3	・引き続き、「すいすい会議」を設定して日頃の職員の思いや悩みを共有し、よりやりがいのある職場をめざす。 ・学校によりだけでなく、学校HPや学級学年通信でも児童の活動の様子をきめ細かく発信していく。またPTAの広報等にも協力をしていただきながら、より地域とのつながりが分かりやすい内容を工夫する。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。